

# わたしの居場所 あなたの出番 地域を元気にする、とよなか女子力



小牧 規子  
(こまき のりこ)

関西外国語大学広報室課長補佐  
一般財団法人とよなか  
男女共同参画推進財団評議員

1981年読売新聞大阪本社入社。社会部、婦人部（現・文化・生活部）などの記者を経て、2007年から2013年まで編集委員。主に子育て支援、高齢社会、男女共同参画などを担当。豊中市男女共同参画審議会委員(2004～2012年)。著書に「こちらふるさと応答ねがいます」(京都ブックス)など。

## ひとこと

豊中市との関わりは1995年の6月に豊中支局長として赴任してからです。まちづくりや高齢者介護など様々な活動をする女性たちを取材し、その力を実感しました。女性が活躍できるまち。それこそが豊中の魅力だと思います。

元氣な地域には、人々のつながりが必ずあります。新しいつながりには人の出番が不可欠で、出番は自分の意見が言える場所から生まれるのです。実際、豊中にもさまざまな活動の中に出番を得た女性たちがいます。彼女たちの経験は、これから出番を迎える人の参考になると思います。女性が持てる力を発揮できる社会は、誰もが生きやすい社会なのですから。

## 持っている力を 引き出そう

「エンパワーメント」という言葉があります。その人が本来持っている力を引き出すという意味です。あまりなじみのない言葉ですが、「第2次豊中市男女共同参画計画」の基本目標の1つに使われています。この計画は、男女共同参画社会実現のために豊中市が取り組むべき施策をまとめたもので、計画期間は2012年度から2021年度までの10年間です。基本目標は4つあり、その1つが「女性のエンパワーメントを支援する」なのです。

私は、計画策定への答申をまとめた豊中市の男女共同参画審議会の委員の一員でしたが、この言葉を使うかどうか、審議会でも議論になりました。しかし、この言葉の持っている意味を定着させることそのものが、女性が力を発揮し、男女ともに生きやすい社会になるのではないかということでもまりました。

## 格差改善のキーワード 「男女共同参画」

男女共同参画社会基本法が施行されて今年で15年になりますが、女性を取り巻く状況はまだまだ厳しいものがあります。雇用の場での男女格差、子育て・介護との両立、DVなど女性への暴力。課題は山積しています。昨年10

月に世界経済フォーラムがまとめた世界男女格差報告で、日本は136カ国中105位でした。

そうしたなかで、女性が持てる力を発揮できる社会をいち早く実現しなければなりません。男女共同参画社会は、市民一人ひとりが自らの問題としてとらえ、どうすれば誰もが生きやすい社会になるのかを模索するところから始まります。

## すてっぷが豊中の人 をつなぐように

豊中市内には、地域で活動している女性たちがたくさんいます。さまざまな活動が連携すれば、新しい取り組みを生み出す力になるのではないのでしょうか。そうした取り組みの拠点となるのがとよなか男女共同参画推進センターすてっぷです。すてっぷがお互いをつなぎ、そこから発信していく。そうした積み重ねこそが「女性のエンパワーメントを支援する」ことにつながっていくのだと思います。

災害の際に格差や貧困など普段は見えにくい問題が浮き彫りになることは、3年前の東日本大震災でも明らかになりました。災害時にこそ男女共同参画の視点での支援が求められます。そのためにも、女性たちがエンパワーメントする拠点である、男女共同参画推進センターの果たす役割は、ますます重要になってくると信じています。